



上海便り

上海日本人学校

浦東校

H24 年度派遣

横山 由佳

平成26年12月



2学期がもうすぐ終わります

上海日本人学校では、8月19日に2学期がスタートしました。9月には、PTA主催による「チャレンジタイム」が行われました。体操オリンピックメダリストの池谷幸雄さんをお招きして、体操教室と講演をしていただきました。体操教室では、正しい準備体操の仕方を教えていただきました。講演では、「しっかりとあいさつをすること。」「しっかりと体を動かすこと。」「夢や目標をもつこと。」について話していただきました。途中、実際にメダルを手にとりて見せていただく場面もあり、子どもたちにとって本当に貴重な体験となりました。

10月には、運動会が行われました。天候に恵まれ、素晴らしい運動会になりました。各学年ともに、中国と日本それぞれの良さを十分に取り入れた演技を披露できました。

12月に入り、急に寒くなってきました。日本での大雪のニュースを耳にします。こちらは雪がほとんど降りませんが、乾燥したキーンとした寒さです。今年の夏は例年に比べ涼しかったので、冬はどうなるか気になるところです。このような気候の違いも、実際に住んでみることで分かることだなと感じます。



国慶節って??

日本と同じように中国にもいくつか祝日があります。国慶節もその一つです。10月にこの祝日がありました。その他にも、いくつかありますので紹介します。12月になると、日本では年末の気分になります。中国でも、同じカレンダーの日にちで生活していますが、日本とは異なり、改暦以前からある祝祭日や年中行事は旧暦で祝うのが普通のようなようです。そのため、同じ12月でも、日本で感じる12月とは異なるものとなります。年末年始の祝日も、春節といって旧暦で他の時に祝います。

祝日と言えば、日本では3連休になることが多いですが、中国では1週間の休みになることもあります。しかし、その前後の土曜や日曜は出勤になることが多いです。現地の学校も同じように登校します。

このように、祝日だけ見ても日本と中国は異なります。それぞれに由来や過ごし方があり、とても興味深いです。

◇◇◇国慶節◇

中国の建国記念日を国慶節と言います。中華人民共和国では、1949年10月1日に中華人民共和国成立式典が北京の天安門広場で行われ、当時の首席毛沢東が人民政府の成立宣言をしました。それ以来10月1日が建国記念日となり、その週は大型連休となります。今年も、10月1日から7日まで連休で、観光地は多くの人で賑わいました。



◇春節◇

中国で一番伝統的で最大の祭日です。旧暦の1月1日にあたります。春節前にはどの家庭も部屋の掃除をしたり、年画（おめでたい内容の絵や言葉）をかけたります。子どもたちは、日本と同じようにお年玉をもらいます。また、大晦日の夜の食事のことを「年夜飯」といい、家族や親戚が集まって、みんなでテーブルを囲み、豪華な食事を楽しみます。新年を迎えるときには、爆竹を鳴らします。



☆元宵節☆

旧暦の1月15日が元宵節にあたります。この日の夜には、色とりどりの灯籠を掛けたり、飾り提灯に書かれた謎の文句を解き明かしたり、花火を楽しんだりする習わしが伝えられています。また、この日にはタンユエン（湯圓）を食べる習慣もあります。これは湯圓（日本でいう団子）と團圓（団らんという意味）の発音が似ており、一家団らんを願いながらタンユエンを食べます。



*日本人学校でも、1年生の生活科の時間に「日本と中国のお正月」ということで、タンユエンを作って食べます。団子の中には、ごま餡を入れます。



☆端午節☆

紀元前278年5月5日、屈原が川に身を投じて亡くなり、それを聞いた人々は、舟を出して探そうとしました。以来、これが端午節となって、ちまきを食べたり、竜舟（ドラゴンボート）で競ったり、よもぎを掛けたりすることが人々の習わしとなりました。

*小学5年生が、5月に宿泊学習に行きます。その時に、ドラゴンボートの体験をします。



☆中秋節☆

古代中国の帝王が秋の季節に月を祭る礼から由来しています。秋の半ばにあたるため、「中秋節」と名付けられました。

中秋節には、月餅を食べたり、名月を楽しんだりし、この習慣は、今でも受け継がれています。また、月の丸さを団らんの象徴と見て、このため「団らんの節句」とも呼ばれます。この日は、世界各地に住んでいる他国で生活する中国系の人たちも一家団らんを祝います。中国の人々が家族の親睦や民族の団結、国家の統一を記念する願いの日でもあります。



このように様々な祝日があり、調べてみると由来もおもしろいです。子どもたちは、中国語の時間や小学部の集会などで、この祝日の由来や過ごし方を教えてもらいます。街の様子も変わるので、実際に住むことで、その様子を知ることができます。その他にも、日本人学校では、現地の小学校と交流する活動などがあり、中国のことについて知ることのできる取組があります。同じ年の子どもたちと、文化・スポーツ交流をすることで、言葉でなくても繋がり合える体験をすることができます。そのような体験を通して、お互いを認め合う気持ちを育てていきます。さらに理解するために、中国語や英語などの語学を学ぼうと意欲を高める子どもたちも多くなります。